

物流に関わる環境負荷低減と物流業務の効率化への取り組み
明治と昭和産業の鉄道コンテナ共同利用による物流のモーダルシフト開始
～当該輸送におけるCO₂排出量を約70%削減～

昭和産業株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長執行役員 新妻一彦）は、株式会社 明治（本社：東京都中央区、代表取締役社長 松田克也）と共同で、千葉県から兵庫県までの物流の一部（約590km部分）を、トラックによる輸送からオートフロア*機能付きのコンテナを利用した鉄道による輸送に切り替えるモーダルシフトを2023年2月より開始します。

本取り組みにより、CO₂排出量を年間20t削減（削減率70%）するとともに、製品の積み込み作業の省力化などによる物流業務の効率化に貢献します（図1参照）。

備考：明治との共同利用の概略図は図2参照

物流業界においては、ドライバーの不足、環境負荷の低減、荷役作業の効率化等が課題となっています。このような中、2019年4月より、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するとともに、経済の成長に役立つことを目的とした「ホワイト物流」推進運動が実施され、当社もこの運動に参加して物流の効率化に取り組んでいます。

今後も持続可能な物流の実現に向けて環境負荷低減、物流最適化の推進に努め、人々の健康で豊かな食生活に貢献してまいります。

*オートフロアとは、荷台の床を電動でスライドさせるための装置で、荷物を荷室の入口に積み、床ごと奥にスライドさせることで荷室の奥まで荷物を移動できます。このため、積み降ろし時に荷室内で作業を行うことなく荷室の奥まで積み込みを行うことができ、作業時間を短縮し業務の効率化を行うとともに、作業者の業務負担の軽減につながります。

図1

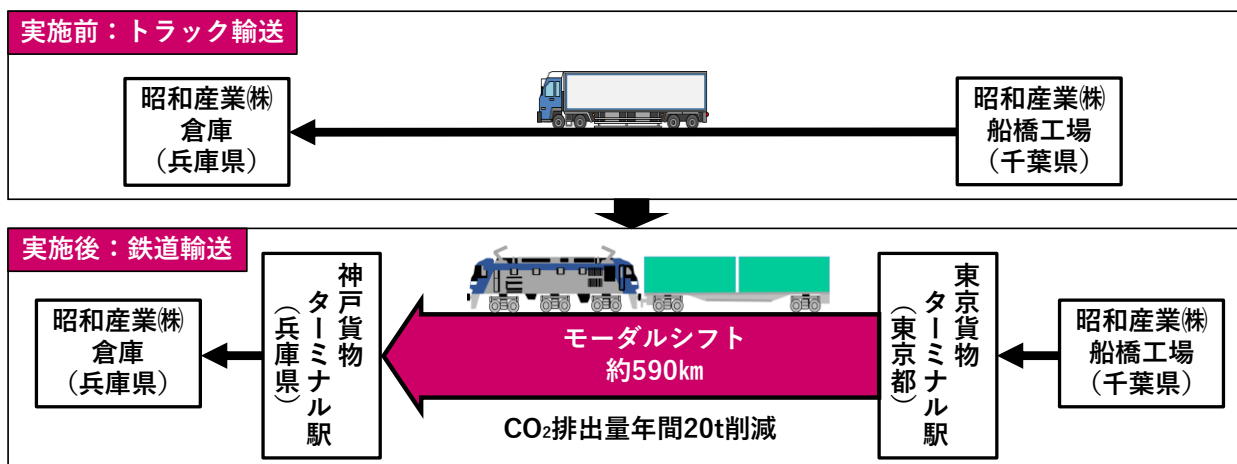
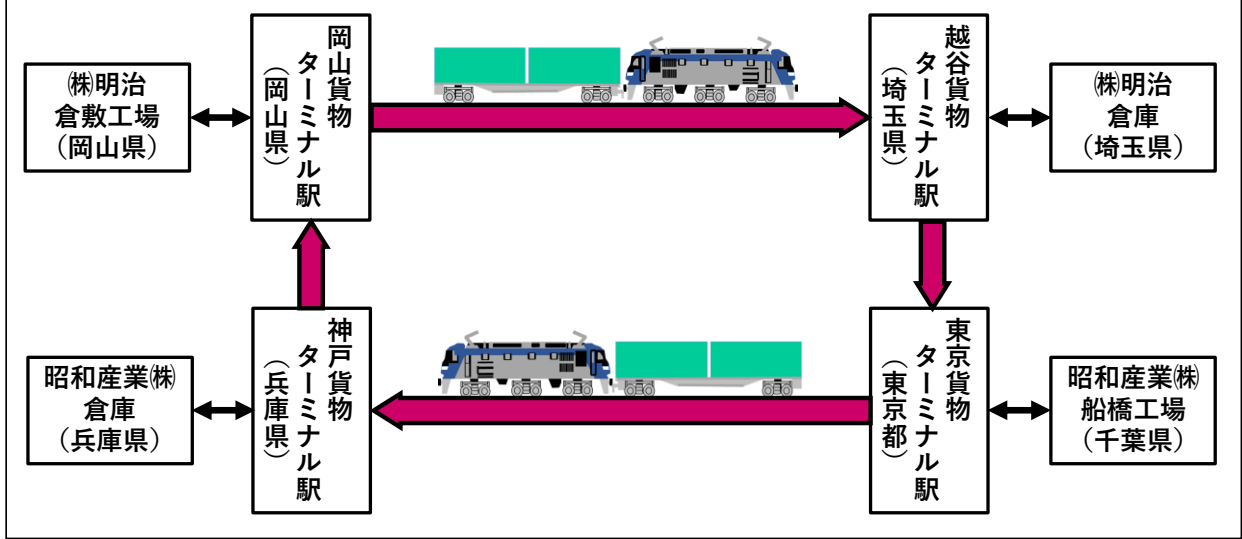


図2

明治と昭和産業の共同運用の概略図



<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

昭和産業株式会社 経営企画部コーポレート・コミュニケーション室

TEL : 03-3257-2042 担当 : 赤松